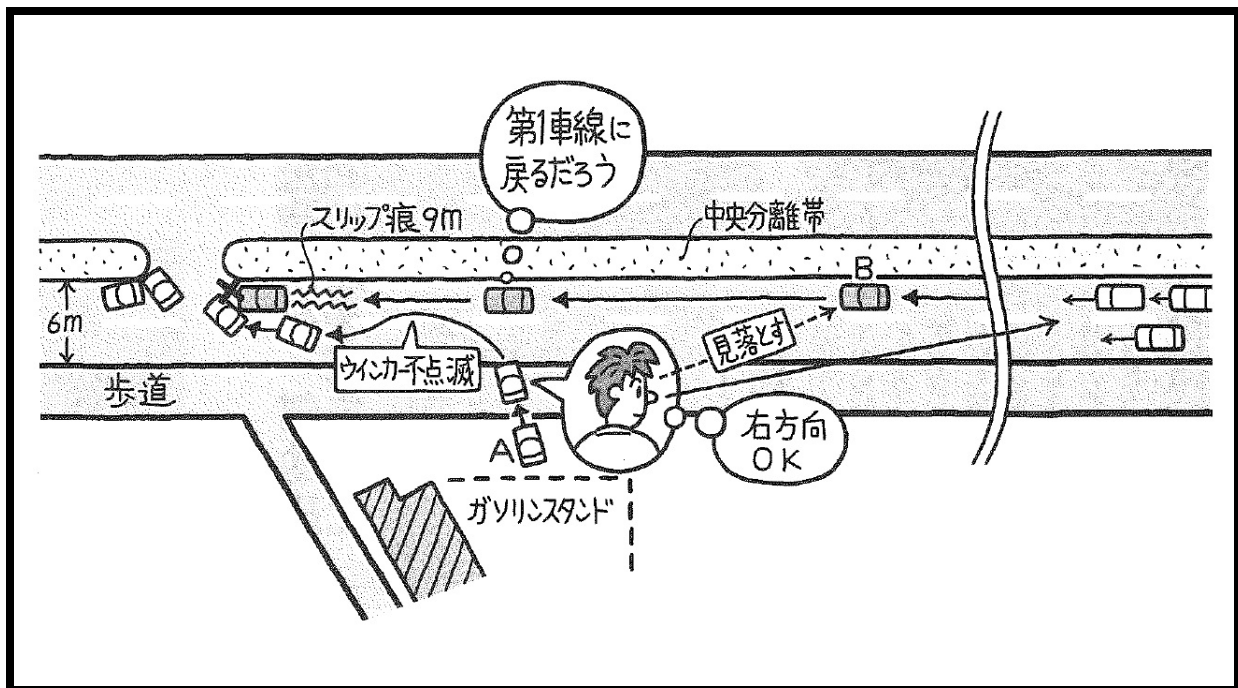


■ 事故の概況



事故類型：追突

当事者A：普通乗用車 10歳代 男性

当事者B：普通乗用車 30歳代 男性

■ 事故の概要

ガソリンスタンドで給油を終えたAはもと来た方面へ戻ろうとしましたが、目の前には中央分離帯があり直接対向車線には入れないので、約25m先の中央分離帯の切れ目で右折・転回しようと考えました。ガソリンスタンドを出るときに右方面を確認したところ、かなり遠くに数台の車両を発見したが、ガソリンスタンドから左折して道路に出ました。Aは第一車線と第二車線をまたぐように走行し、中央分離帯に進入しやすくするために、左に、つぎに右にハンドルを切りました。ところが突然、ものすごい衝撃があり、後ろから走行してきたB車と衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aがガソリンスタンドから出ようとして右を確認したのにもかかわらず、近くを走行していたB車を見落としたままで、右折・転回し、S字走行をしたことが直接の原因です。また、第2車線から第1車線そして中央分離帯で右折の準備のために停止しようとするまでの一連の動きの最中に、Aがウインカーを使用しなかったことも原因の一つです。

道路は一人だけで使用する場所ではありません。たとえ「誰もいない」ように見えても「左右の安全を確認する」「後方の安全を確認する」「ウインカーを出す」などは交通社会のルールとして自然に出来るようになるまで意識して行いましょう。

今回の事例のように、見たときにはいなかったはずなのに、実際には車両がいたということも現実にはありますので、あくまでも謙虚な気持ちで運転したいものです。